

福生町議公協談公々談録 (才一回臨時会終了後)

日時 昭和三十五年一月八日 午一時四十分

場所 福生町役場

出席議員

才一番 斎藤真一 才二番 高橋千春 才三番 渡井明

才五番 清水子市 才六番 西村光人 才七番 細岡晋一

才八番 近本盛天 才九番 大久保一郎 才十番 米泉 薫

才十一番 石川信義 才十二番 山下久吉 才十三番 田村祐一

才十四番 中西虎蔵 才十五番 高水惣八 才十六番 村野 弘

才十七番 斎藤 博 才十八番 岸 茂 才十九番 渡辺 健二郎

才二十番 平井賢治 才二十一番 吉田 清 才二十二番 山下幸三

才二十三番 瀬古清蔵 才二十四番 高橋彦市

一 議場のため出席しなかったものも、下次の通りである。

町長 秋山誠一 助役 川窪金吉 収入役 大野中心一

総務課長 豊井 茂代次

主計課長 橋本 孝蔵

税務課長 高水 水

警備課長 森田 猛

産業課長 町田 信二

水道課長 古石 徳男

市長 橋本 兵五郎

一事務局の取員付次りとありてある。

事務局長 上野 重勝 書記 生み 和利

一議長会関係の報告事項について

議長 午後四時十分協議会を閉会して告げらる。

本日午後一時より郡議会の役員会があり、時間には遅く
たきと即訖ひ申上げます。

本年は福主町誕生二十周年の佳き年と迎えたわけ
であります。初議会に皆様より御願と拝し、御慶び申上

げます。昨年中は各位の行政上の御協力と感謝いたし
ます。本年の躍進途上の福主町発展に御協力とす。

願ひいたす。

三三三 報告申上げます。

昨年未だ皆株方の非常な御骨折と戴いて下さり、た首
郡園市街地開発も御承知の通り予算獲得の

段階にきてあります。本年未だ御多忙中各常任委員長
御副議長より御骨折により数回請願陳情と詰り

られまして、たが土壇場で予算獲得が難いといふこと
ころにきて、御村青梅福生の熱心な運動に係うす。一応は除外

とらう形になったのであります。六月七日の両日に関係理事
者より七日には福主の運動に渡す。末泉、議員、町長

と、いに私と福主生との間にやき、長官より御努力と御奮闘に
より、虎々及合議に持込んで戴き、どうか入れしもうさうす

ふようになつた。翻かくは町長から報告があると思ひます。
同時に運動し、うまひりする。た電話局の誘置運動も、我

々の熱情と総務長官もよく承知してあり、施行の順位として

二十七日目であり、すくとも五、六年後でなくとも見方もあ
りまう。だが飛躍的にエウ方にもつてきた。戴き、本年八月著工し
明十七日には完成するとうとう明に見通し——と戴きま
だ。

以上のようになつた。さういふ事業がすつとつてきたことはたしか
次第で、總務委員も熱情をこめてやつておられるので——は
感慨深いものがあるとなつてます。

赤坂もすつと事項として、本日二時間程、議長会の方として審議し
たことあり、町村も議長側も西多摩郡の発展のため、さ
ういふ力も挙げて南部町発をやらうと云うことになつてあり
十一日十日の議員總會におつても、色々と熱情がある意見もあ
り、観光道路の線にまつても力強く進めてやうと思ひます。
地方事務所の所長も非常な力さぶみ入つてあり、議員諸氏
の御協力をお願いする。

来る十八日に東部中一、西多摩に見えらる予定であつたが、十
七日に変更され、一般の人より意見を聞く、いわゆる公廨会か
ブリュストンの別荘で開かれることになり、福主町からは「田村利一
氏」が出席し、都立高校の誘正と、観光道路の促進を述べ
ることになつてゐる。さういふ町より色々の歓笑から活発な意見があ
つたと期待した——つてあります。

都立高校の誘正にまつたは先程の合議でも話題になり、ハナ町村
におつて、好適な場所に誘正することも望んであり、秋多
町でも土地は十二分にあるので望んであり、さうの高射砲陣地
も予定してゐる。福主でも是非欲しいといふので、秋多町と
も接渉し、何とか譲歩してもらつて、——た他、町村も協
力する——ことになつてゐる。

さういふ養老センターも計画されつてあり、これは金銭的な
便益、ケースとして、老人のホーム——と云うことになり

市長も熱心になつてあり。西多摩郡にもつてくることは補へ
定いつた。場計は十一年作を要し、秋多摩が広沢を
土でもあり、これも早急に決定を迫らねばなり。設備も
完備するに金銭的なものとするようになっていく。
以上報告いたします。

市長より 施政方針 等につづき説明がありました。
昭和十五年の予算 編成期であり、御意見を承り
たいと存じます。

新聞にもある通り、本年はにおける地方団体、政府の指
導方針として、極力新しい事業は抑制とし、全費を
膨大させないような方針を堅持してあるようでありま
す。そのため、起債等も貸付金を面があるやもふ水ゆめと
心配をしております。然し、この面も努力いたし
まして、建設途上の施設等でありまして、のり貫重なる名を
のり事業を進めたいと存じます。

市長の試長の方針のありまうたように、本年は町制施行
以来の三十一年でありまして、昭和十五年一月に町制が実施さ
れまして、この年十月が参りますと、満三十一年となる
わけでありまして。

この間色々な過程がありました。即ち大東亜戦争も
とあり、終戦の混乱期を経て躍進を遂げ参りました。当時
の人口は八千人であり、現在配給を受けつつある人口は
二万余人となっております。この三倍近い膨張を遂げ
たわけでありまして。長い年々さかへてつくられた市や
町と違つて、短い期間に発展してきた町として、木だ
施設の備はないものか、色々とあるわけに、整備された市
や町と同じようにするには非常な努力がいるわけ
であります。本年の三十一年の関係につきま

了は一応当初予算に基組んでおきます。色々の行事に
つきまゝは議会を中心といたしまして、各種団体等の
意見も充分承り祝賀の儀をやりたいと考えます。

三十年の記念すべき年でありまして、色々の意味で
発展果が考えられてよいものと思ひ、更に今後三十年
の計画がたてられてよいと考えます。

五派の町造りもいたしまして、これは完全な都市計画を
いたさなくてはならぬわけでありまして、幸に首都圏の市
街地開発地域の指定を受けますと出来まして、これは都市計
画も非常に促進されると思ひます。そこで先ずも
つて首都圏の関係をどう進めようかとつては、首都圏の対
策協議会をつくることがあります。これは議会を中心と
して、都市計画審議会、或は農業委員会、その他農業関係
地域関係、学識経験者等と、以て首都圏の対策協議会

をつくり、これによつて今後の面を進めてやきたいと思ひます。
それから役場においても根本的な都市計画を進めてゆく
には課をつくり、重実的にこの仕事を進めなくてはならぬ
と思ひます。目下三四名の係も設けて、これに専念させ
たいと思ひます。都市計画とやるには道路、下水等が
最初の仕事になります。が、未だ根本的な計画が出来て
いませんので、三十五年迄はその調査費を計上し、根本的な
排水計画をたてる。これは都市計画の方で承認を得る
れ、は全面的に補助又は助成と云ふことにしたいと思います。
区制整理は全般的と云うわけにもやかないので、今後
それによつて有利だろうと考えるところは出来れば区制
整理組合をつくって戴いて、それで進めて戴きたいわけだ
あります。羽村等は、どこまでも組合組織でやつてゆくのだ
と云ふこととあります。組合組織が出来ない場合は、町が

「来るようになつてあります」ので、どうした地区に對し
まゝは区劃整理をやつてやがなくてはならぬと考へ
ます。

首都圏は國連して工場を誘置しようとする計画を建
てる區域につきまゝは企業誘置条例をつくりまゝに
特別に工場等の来易いように方法を考へる必要がありま
す。又住宅協会と云ふもので予め土地を確保して誘
置する方法もあるわけでも或は又計画的に住宅をつ
つてやうとする方法もあるわけでもす。こゝに
關係についても早速に首都圏対策協議会になりて對処
してやきださうと考へます。それから首都圏の關係
はつて本年の論議かくと申上げると本年の市街
地開発地域の指定を受けたいと云ふところは野田市
にちうては青梅、羽村、福生で、福生は全部も入れることは困

難のよう。青梅も區域として一部含めようといひ
ます。今ではこの二ヶ所でありまゝ。工場地域に
する中心部へにつけては住宅公団で買上げたいと云ふ考
へであります。が住宅公団に對する政府の財政融資に
ついて本年を要求してあります。これはころうの間の關係は
二十五万坪、野田地区が二十五万坪、合せて五十万坪であり
ます。がこれを買上げようとする予算が二億四千九百万円と
云ふ金額であります。この費用が本年は災害地の復旧に大
きく予算がとられ、關係から新規事業は一切取止めた
と云ふ大方針のもとに仲々認められなかつた關係で例
年一暮一ぱいで諸念がつくものと本年は春に持越しま
して十ヵ月までは各全体の予算を確定するといふので
本日も未だ接渉中だと思ひます。その費用の關係につ
きまゝ大体的見通しがもてるようになつて参ります。

}
 7
 =と
 か
過
 去に
 なこ
 れて
 ありま
 す。
 4年
 後に
 おりて
 もし

若干の予算が計上されております。これはどこにどの
程のところでいうならば早く発表いたします。困難であ
り、又五ヶ坪以上は一ヶ坪で買取ることも困難であり、更
に割増しとらんてまわくになつた場所も寄せ集めて
適当な形が出来ることも考えられます。この点について
最善の努力をしようと思つてやります。

自治会館につきましては色々と押折戴ました。当初の
目的は公民館としようとして去されたもので、公民館としてや
つてやうなために除々に整備をいたしまして、先般活用出来
るようになつて公民館活動もやつてやけるよりいいと思つて
ます。教育関係につきましては三十五年のあたり社会教育主
導と置かなくてはならないと思つて、命令せられてあり
ます。が、どうして関係から更に自治会館と有意義に使用
しようと思つてやります。

社会労働施設につきましては三ヶ年計画をやつてあります。
庁舎住宅も本年と同じようにやつてやります。と考へま
す。

又適当な場所を得ました。保育園をつくらうと思つた
ことを考へます。保育園の関係は思ひから補助もあるわけであ
ります。が、これは庁舎でも又個人聖堂でもよいようになって
おります。聖堂のものの費用からすると個人聖堂の方が
聖堂の比較的かゝらないと思つて考へられます。適当な聖堂
者がありまうたら補助金のあつてもいいと思つてやつても
うういふことも結構ですが、急速にやうな関係が得られなう
町営をやつてやきたいと思つてます。適当な場所が得られ
ば、小もやつてやきたいと思つてやります。

保健衛生の関係では最近各町会の衛生協力会の活動が活発に
なり、良い成果を挙げがてあります。本年からは更に金と

の家屋内まで消毒——やり——るような風にもうみけてやき
たいと考へ、若し一はさうした面の予算——を考へてあります。
大きな問題として、は尿の処理が、現在のところではどうい
うもなく、適当な設備もなく、羽付町、村々等に捨てらるもの
が多いようであり、ます。さうやうと、いうから、も次第に追ふて、
へるようでもあります。うて、この儘、改認できない。どうの
村でも、相当大きなものをつくつてや、なくてはならぬので、
幾つもの村が共同してやつてや、うか、よいのではなかつたかと思
ふ。都にありても、共同を常々奨励——つあり——、ミホも場計
の問題があり、どの村も、改め、この話には熱心であるが、うまい候
神地が得られ、ない。物色は——つあるようです。が、成果が挙るとい
ふのは、いつて、い、何——と、場合、の面に、むか、うてや、き、たい。
産業関係で、商工業については、商工発展のため、更に、や、榮、た、け
て、な、く、色、々な面に、発展策を考へてや、き、たいと思つてあります。

農業関係については、田中、う、げ、う、た、ように、新農村建設の指
針になつたと云うことで、現在準備中であり、ます。新農村建設
の計画を立て、ます。のに、農業振興協議会をつくり、ます。が、
いも各部落の座談会として意見と聞つて、ま、いつてあり、ます。が、
更に部門の集りの意見、或は総合的な意見と、何回も重ね、な
りと矢向を目的にや、か、ないと思、ます。が、三月までに計画を立
て、や、き、たいと考へ、ます。特に、一、か、で、市街地化——、い、る、この、
で、農業の方向はどうなるか、と、う、う、で、難——い、と、も、あり、ます。
又、需要地を控えて、い、る、に、け、に、企業化——、た、か、は、で、成果を、
挙げ、い、る、面も、あ、る、よう、で、色、々な、才、は、と、購、い、ま、う、て、今後、の、農、業
の、堅、定、な、基、盤、を、あ、ら、う、な、計、画、を、つ、く、つ、て、や、き、たい。三、五
年、に、あ、ら、う、な、も、つ、て、あ、る、助、成、を、得、て、施設を、つ、つ、て、や、き、たいと
考へ、ます。が、の、う、で、も、相、当、額、の、支、費、を、計、上、——、と、な、る、等、の、施
設、や、計、画、が、完、全、に、や、つ、て、や、け、る、よう、に、い、た、い、たい。

水道関係では先程大試さしたオニ浄水場の関係は唯水も
入れものもあまるわけでも、今後はその水も押さへて装
置をつけるわけでも、三十五年におきて、ポンプ、電気施設、
上屋等をつくり、来季夏の需要期には充分の水の足りるよ
うに、これは起債の決定と持っていると、向に合はないので来季
を始めた仕事も始めて夏余に対処しなけりなうな
いと考えてあります。起債の関係も努力して大いに
工事の出来るよう考えてあります。

配水管の延長も出来るだけ計画的に、そしてやきたいと考
えてあります。が来季は先ずもってオニ浄水場を
完成いたしまして、その余力をもって配水管も出来るだけ
すみやかに、まづ延長してやきたいと考えてあります。
青森線の関係について申し上げますと、この線にも簡單
に申し上げるに、青森線の復線化については、拝見から

東青森まで復線にするという事とありますが、極東
青森間は甲乙買収か、となつて甲乙の買収を、この復
線にする事とあります。この總体の費用が四億五千万円の
鉄道利用公債と地味村でもつと、この事になったわけであ
ります。この二十％は福生町の責任であります。否、四億
五千万の半分は東京都が利用公債をもつと、この事であ
ります。二億二千五百万円も青森町村福も、豊島のふち
で責任をもつと、この事と、この般都福事との間にも、豊書の
交換も、これは、かりに、たわけであります。二億二千五百
万円の二〇％、四千五百万円の利が、やは、この責任が、やけり
若干、予算的なことも、考へなくてはならない。昭和三十四年
に、今、東京都に先いますと、この事とあります。三、四、五
年は、この、関係が、主として、きます。唯、利が、や、どの程
な、ある、か、については、金融機関で、引受け、る場合に、利が、や